

進捗状況の概要（1ページ以内）

[学内の実施体制]

- ・本事業の推進は新たに設置した教育開発推進室が担い、事業実施計画と進捗状況は本校の最高議決機関である運営委員会へ毎月報告し、校長の下で学校全体の取組として実施されている。
- ・本事業の評価体制として外部有識者（大学教員2名、高専教員1名で構成）による外部評価委員会を設け、年度末に事業実施内容の検証を受けている。その際の助言は事業運営に活用し、結果を次の外部評価委員会で報告している。
- ・FD委員会と連携しながら本事業推進に必要なFDを実施している。例えば、平成29年度からFD委員会は新人・中堅教員を対象に体系的なFDプログラムを推進している。特に平成29年度計画から新たに取入れたアクティブ・ラーニング推進と連動して、全教員が参加する教員研修会で反転授業をテーマとして実施した。

[中心となる取組]

- ・中間評価において改善を要する指摘事項はなく、事業全体は順調に推進されており、学習管理システム（LMS）の効果的な活用により、大きな指標である学生の授業外学修時間は順調に増加している。
- ・挑戦的な取組である社会人力・人間力の可視化について、高専機構の推進するモデルコアカリキュラムの改訂に伴い、開発した評価ルーブリックも改訂した。また、学生がこのルーブリックを用いて、正課授業、課外活動、その他の活動から獲得したコンピテンシーのレベルを自己評価し、その結果をレーダーチャートとしてLMSを介して各学生へフィードバックできた。今後はレーダーチャートを追加しながら各自の強み、弱み、成長度を確認できるように継続していく予定である。

[取組の成果]

- ・平成29年度の最も大きな成果は、開発したルーブリックを用いて学生が自己評価したコンピテンシー獲得状況を可視化（グラフ化）して学生へフィードバックできたことである。

[補助期間終了後の継続発展に向けた取組]

- ・事業期間終了後の大きな経費はクラウドシステム（LMS）使用料である。LMSの使用料は基本的に受益者負担と考え事業を始めており、後援会への説明を始めている。一方、高専機構が平成26年度後半に全高専で使うLMSを選定したため、本事業は高専機構が推進するLMSに乗り換えることで使用料負担を賄うこともできる。

[学内外への波及効果]

- ・本校の取組のうち、ティーチング・ポートフォリオ作成とアカデミック・ポートフォリオ作成に関する取組は他機関にない高い作成率の実績があり、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）が主催するワークショップへ講師を毎年延べ数名派遣している。平成29年度は中国地区高専教員研修にも採用され、本校の講師を派遣して実施した。また本校で開催するワークショップは広く公開して参加者を募集しており、四国地区外からの参加者も受け入れた。
- ・AP採択高専が合同でフォーラムを開催した。高専は各テーマに採択されており、全テーマが集まったフォーラムは有意義なものとなった。
- ・取組内容は、本校WEBサイト内に専用のHPを開設し、広く広報している。
- ・取組成果は、国内外の学会等で積極的に成果発表している。平成29年度は、次のように10件以上の取組成果を発表している。全国高専フォーラム(2件)、SPODフォーラム（優秀ポスター発表賞）、日本工学教育協会年次大会、11thISATE2017(Singapore)、高知大学 AP 事業シンポジウム、大学教育カンファレンス in 徳島(3件)、AP採択6高専合同 APフォーラム、テーマⅡ，テーマⅤ合同シンポジウム、大学教育研究フォーラム